

ひろさわ ゆうこ
廣澤 裕子 さん(蒔田)

さまざまな撮影をしていることを知りました。今後、聖地巡礼などで盛り上がる楽しみです。



ちくくタッグリーダー 白井さん



大型口け時のケータリング

【問】商工観光課（本庁3階）

20-1160

ロケーションサービスとは、ドラマや映画などを市に誘致し、撮影場所やそれに付随する支援を行うサービスです。

今回は、その活動に携わる民間ボランティア団体「筑西市活性化プロジェクトちくくタッグ」のリーダー白井佐智子さんに話を伺いました。

ロケがもたらす経済効果

「これまで、筑西市内でロケーションサービスをとおして、飲食店・ホテル・レンタル業界に6千万円程の経済効果をもたらしています」と教えてくれる白井さん。また、映画などでは、撮影協力に「筑西市」と表示が出ることで、宣伝効果もあります。例えば、現在使用されていない

関城支所の議場は、今や裁判所の撮影場所として映像制作業界内で認知され、多くの撮影に使用されています。昨年は9件の撮影が行われ、その中にはみなさんが見たことのあるような作品も含まれています。

ロケ隊の冒袋をつかむ

撮影の規模によっては、総勢300人を超えるロケ隊が撮影に来ることもあるそうで、結成当初は苦労もあったそうです。

「結成して今年で14年目になりますが、当初は映像制作の現場に慣れている人は少なく、アシスタントディレクターの経験があつた自分が中心となり試行錯誤しながら取り組みました。地元の飲食店には深夜や早朝指

市内で撮影した「ゴジラーラー1.0」や「月の満ち欠け」の時に使用した台本や現場写真を企画展で展示し、ファンの来訪につなげることもできたそうです。これらの撮影前から撮影後まで多岐にわたる支援について、「過酷な撮影時でも、市民のみなさんのご理解や協力がスタッフの活力になっています。肃々と調整をしてくれる『官』とスピード感と人脈をもつて積極的に攻める『民』。この

官民一体の強み

タッフがまた来なくなるまち筑西にすることが最大の目標です」と白井さんは話します。官民一体で取り組んでいるからこそ、継続できています。どちらかの熱量が下がつても成立しないことが伝わってきます。

取材を終えて

市がロケ地の照会や問い合わせ窓口となり、申請手続きを行うのに対し、ちくくタッグが食事や宿泊場所の手配をすることで、より良いロケーションサービスを提供できるよう協力している姿が伝わってきました。地域の協力を得ながら、ロケ支援を続けるちくくタッグを見かけたら、ぜひ声をかけてください。

「ちくくタッグ」×筑西市 官民一体でつなぐロケ支援



定のお弁当の手配、突然のキャンセルなど、業界内の厳しいお願いを理解してもらうまでが大変でした」と白井さんは当時を振り返ります。

食事の提供には工夫も欠かせない

そうで、連日撮影が続く場合は、メニューが重ならないようにしたり、旬の特産品を差し入れたりすることで市をPRするほか、俳優陣の食事の好みを調べて提供するそうです。

ロケ地紹介の
様子はこちら



ちくくロケ！
Webサイト



ゴジラーラー1.0撮影時の現場

関城支所の議場の様子